

# 関西学院大学 研究成果報告

2022年 9月 14日

関西学院 院長殿

所属：法学部  
職名：教授  
氏名：関谷一彦

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国： ） <input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国：フランス ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間 <input type="checkbox"/> 関西学院外留学（滞在国： ）
研究課題	リベルタン文学である『カルトゥジオ会修道院の門番であるドン・B***の物語』についての研究
研究実施場所	フランス・リヨン（リヨン第2大学）
研究期間	2022年 4月 1日 ～ 2022年 9月 19日（6ヶ月）

## ◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

18世紀フランスのリベルタン文学のなかでもっとも重要な作品の一つである『カルトゥジオ会修道院の門番であるドン・B\*\*\*の物語』の翻訳に取り組んだ。リヨン第2大学の名誉教授であるDenis Reynaud氏とほぼ毎週読み合わせを行い、テキストの解釈について議論しながら日本語への翻訳を進めた。この作品の日本語への翻訳はこれまでなく、研究そのものもフランスでもあまり進んでいない。そのせいか本テキストの読み合わせのなかで、底本にしたプレイヤッド版に誤植や間違いが多く、批評版のL'Enfer de la Bibliothèque Nationaleは校訂者の解釈が含まれているので、初版本とのずれがあることがわかった。また、テキストの解釈では18世紀のフランス文学の専門家をもってしても、一筋縄ではいかないテキストであり、翻訳の際には曖昧な箇所がいまだに残っている。しかし、20回の読み合わせで、最後まで読み進めることができ、またReynaud氏との議論を通して、この作品の奥深さ、面白さ、当時なぜベストセラーになったのかがよくわかった。こうした議論がなく、一人で訳していたならば、多くの誤訳や解釈上の誤りを生み出していたことだろう。夏のヴァカンスを犠牲にして、この翻訳に付き合ってくれたReynaud氏には感謝している。

また、この作品は初版（1740年または41年）以後多くの版を重ねてきた。その多くが、パリのフランス国立図書館（BnF）に残されており、三度のパリ訪問で18世紀に出版された諸版はすべて目にすることができた。とくに物語のなかに挿絵として挿入されて

いる版画は、ほぼすべて写真撮影することができた。今後はこうした版画を分類し、比較検討し、翻訳を出版するにあたり、どの版の挿絵を用いるかを検討したい。

リヨンの古書店で見つけた1771年版は、まだ詳細な比較検討はしていないが、重要な版の一つだと考えられる。こうした古書を扱っているVieux Lyonにある書店Diogenéには、18世紀文学の図書、および18世紀文学についての図書が数多くあり、今回とくに18世紀のレチフ・ド・ラ・ブルトヌの図書をはじめ多くの図書を購入することができた。また、パリのセーヌ河畔のブキニストでも18世紀のリベルタン文学を見つけることができた。これらは大きな収穫であった。

マルキ・ド・サドは『ジュリエット物語』のなかで、『カルトゥジオ会修道院の門番であるドン・B\*\*\*の物語』に触れていて、この作品を「純真無垢(candeur)で誠実な作品」として評価している。今回の滞在中、そのサドが1772年に娼婦にカンタリスを飲ませた廉（毒殺未遂）で「マルセイユ事件」を起こしたマルセイユに出かけ、事件が起こった建物を間近に見ることができたこと、サドはこの事件の後イタリアに逃げたが、最終的には当時サルデーニャ王国の所領であったサヴォワで拘束され、幽閉されたミオラン城を見学できたことも今回の成果の一つである。「マルセイユ事件」の現場は旧港の東側に位置するオーバーニュ通りにある。現在はアラブ人街となっていて、マルセイユでももっとも活気があるこの界限は、18世紀ではおそらく娼婦街であったことだろう。建物自体は18世紀の外観を今に残している。「マルセイユ事件」については、何らかの形で発表を考えている。またミオラン城は、車がないと行けない場所にあり、サヴォワ在住の友人が案内してくれた。城の前方は断崖絶壁になっており、要塞としての役割を当時は果たしていたが、ここからどのようにしてサドが下男のラトゥールと脱獄したのか興味を掻き立てられる城であった。ガイドの説明もあり、サドが幽閉されていた部屋も見ることができた。

その他ディジョンで「18世紀のモード展」を見ることができたのも18世紀研究に欠かせない成果の一つである。いくつかの美術館の作品を一堂に集めたこの展覧会は、人気のある展覧会で、18世紀のモードを知るうえで貴重な展覧会であった。『カルトゥジオ会修道院の門番であるドン・B\*\*\*の物語』のテキストのなかにも、さまざまな衣装が描きこまれている。18世紀フランスのこうした文化を理解していなければ、翻訳でミスを犯す可能性があり、その点からも貴重な展覧会であった。

こうした成果には多くの友人の研究者が協力してくれた。彼らの協力がなければ、今回これほど多くの成果をあげることはできなかつたと考えられ、滞在中に協力してくれた研究者仲間には深く感謝している。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。